

福井県医師会

だより

第656号 平成28年(2016)2月



馬踏飛燕 福井市 吉村 信

表紙写真説明：馬踏飛燕

福井市 吉村 信

甘肅省武威市雷台漢墓で出土した甘肅省の至宝ともいべき銅奔馬である。史上に有名な前漢の武帝が、張騫を西域に派遣しその地域の情勢を探らせ、帝の寵妃の李夫人の兄、李広利が大宛国を討ってようやく入手した汗血馬が、飛燕を脚下に踏まえ疾駆する姿を見事に描写している。杜甫の初期の作「房兵曹胡馬」

「房兵曹胡馬」
胡馬、大宛の名あり
鋒稜、瘦骨成る
竹批ぎて双耳峻ち
風入りて四蹄軽し
向う所空闊無く
真に死生を託するに堪えたり
驍騰なること此の如き有れば
万里の横行も可なり

を思わず想起させる傑作で、中国国家観光局のシンボルマークともなっている。四回ほど訪れているが、見る度にその迫力には圧倒される。照明が明る過ぎ、背伸びしたりしゃがんだり、100枚あまりも撮影してようやく精悍な汗血馬の表情の撮影に成功した。

かつての西域への出発点、蘭州の甘肅省博物館の寒々たる展覧室に躍動する汗血馬に感動し一句

如月の 寒気切り裂く 汗血馬

醫 縫 録

福井県医師会理事就任のご挨拶

地域医療担当理事 片山 外 一



この度福井県医師会の地域医療、(副) 地域医療構想担当理事を拝命しました。

御承知のように昨年の通常国会で成立した「医療介護総合確保推進法」により、平成27年4月から各都道府県が「地域医療構想」を策定することとなりました。これは高齢人口がピークを迎える2025年に向けて病床の機能分化・連携を進めるために、医療機能ごとに2025年の医療需要と病床の必要量を推計し、定めるものです。

その内容は、

1. 2025年の必要病床数を、2次医療圏それぞれに高度急性期、急性期、回復期、慢性期の4機能ごとに推計する。(国の算式では、福井県の現行約9,500床が7,500床程になる)
2. 目指すべき医療提供体制を実現するための設備や人の確保を目的に、地域医療介護総合確保基金(補助金)を出す。

以上の2点ですが、ここで問題点が幾つか指摘されています。国が提示する必要病床数の基礎となる数字は平成25年10月1日現在の「医療施設調査」の結果に依るもので、今では2年前の数値となっています。また、「病床機能報告」も平成26年7月時点のものであり、高度急性期から慢性期までの病床機能の定義が明確でないまま行われたアンケート調査の結果であります。即ち、基礎となる数値の集積や解析がやや雑であり、短兵急である観は否めません。

また、一括りに2次医療圏と言っても地域によって事情は大きく異なり、地域を跨いで患者の流入も多く、人口減少の度合いもそれぞれに違いがあります。

地域医療構想の策定作業は昨年からは始まっています。県は福井坂井医療圏を福井地区、坂井地区分科会の2つに、嶺南医療圏を二州地区、若狭地区の2つに分け、奥越医療圏、丹南医療圏と合わせて6地区の「地域医療構想調整会議」を立ち上げました。これは毎年開催される予定で

あり、既に昨年9月から第1回目の会議が地区毎に開かれております。委員は、県、郡市医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、保険者協議会、医療機関、在宅医療、行政の関係各代表と県事務局であります。

私も会長と共に各地区会議に参加してきましたが、第1回目ということでもあり、先ず県事務局から国の方針と県の立場の説明がありました。国の思惑が病床削減と入院治療から在宅療養への転換による医療費の削減にある事は明白であります。一方で日本医師会は、地域医療構想は地域内での各医療機関の自主的な取り組みや医療機関相互の取り組みを通じて必要な病床を手当とする仕組みであり、都道府県知事に稼働している病床を削減させるような権限は無いと表明しています。

各委員からは、病床削減に対する不安に限らず、介護との連携やマンパワーの問題、果ては2次医療圏そのものが直面している課題など多種多様な意見が出されましたが、中でも最大の問題は在宅医療の目途が立っていない現状と将来予測にあると思われ、私自身も改めて問題の深さを認識した次第であります。

これまでの経過は以上の通りで、今後の予定として調整会議の結果を県が取り纏めて医療審議会に諮問することになります。県は数値目標を国に提出する義務を有する立場もあり、なるべく早く出した方が補助金の面で有利になるのではないかと考えるようです。しかし地域医療構想は医療審議会議長である県医師会長の承認、即ち医師会の先生方の総意が必要なことは申すまでもありません。

今後は大中会長、池端副会長の御指導を得ながら与えられた職責を果たしていくのが私の役割と考えておりますので、先生方の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。